

令和7年度 県立日立第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	本校は、高い志を持ち、優れた資質と豊かな人間性を備え、社会の発展に貢献する人材を育成する学校である。 そのために、様々な学習機会を提供し、各教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな指導を行うとともに6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、次のような生徒を育成することを目指す。				
	1 自ら課題を発見し、主体的に「やり抜く」ことのできる生徒				
	2 物事を理性的に判断し、筋道を立てて議論できる生徒				
	3 高いモラルと豊かな感性を持ち、リーダーシップを発揮できる生徒				
	4 運動の楽しさや喜びを知り、自ら健康を管理できる生徒				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標	達成状況
【学習指導・進路指導】 【成果】 ・第2回の学力推移調査において、3教科合計の平均点標準偏差値は、1年生57.9、2年生59.0、3年生57.2であり、各学年とも全国平均点を上回っていることから、基礎基本は定着していると言える。ただし、各学年とも学力差がみられる傾向がある。 【課題】 ・「主体的、対話的で深い学び」に向けたICTを活用した授業改善 ・発展的な学習や補充的な学習に対応する課外学習の工夫 ・中高連携授業の推進（5教科） 【生徒支援】 【成果】 ・基本的な生活習慣は定着傾向にあり、落ち着いた生活をしている。 ・生徒の自主性を尊重した指導を実施することで、生徒の自主的・自律的な態度が定着しつつある。 【課題】 ・特別な支援が必要な生徒に対する理解の推進と、支援体制の整備 ・登校しぶりの生徒への支援 【特別活動】 【成果】 ・学校行事や宿泊学習などにおいて、生徒の主体的な活動が見られる。 ・様々な行事が復活し、生徒の自主的な活動を尊重した活動が実施できるようになってきた。 【課題】 ・生徒の自主的・自律的な態度を育む行事、委員会活動の工夫 ・地域や異校種の学校との協働活動の推進 ・対外的な活動の推進 ・キャリア・パスポートの効果的な活用の検証 【国際教育】 【成果】 ・イングリッシュタイムやグローバルコミュニケーション、海外語学研修に向けての学習の実施により、英語に対する興味・関心が一層増している。 ・英語の運用能力が伸びており、英検準2級以上の合格率も向上している。 【課題】 ・ブリティッシュ・ヒルズ語学研修・海外語学研修の充実 ・高校進学後の海外研修や留学等への啓発 【科学教育】 【成果】 ・サイエンスリテラシーにより、研究のテーマ設定やデータの収集・分析等を学習し、基本的な研究の仕方を身に付けている。 【課題】 ・中高一貫校を意識した指導内容等の工夫・改善 ・科学的ディスカッションができるリーダーの育成につながる支援の工夫 【働き方改革】 【成果】 ・ICT活用による校務効率化に取り組んでいる。 【課題】 ・業務内容の精選と業務時間外労働時間の縮減 ・校務DX化の一層の推進		1	高い志の育成	①6年間を見通した中高一貫校としてのキャリア教育の更なる充実（教務部、進路支援部、各学年） ②医学部進学等を意識した中高連携の推進（進路支援部）	B
		2	学力の向上	③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直し・学力向上を図るICTを活用した授業づくり（教務部、各教科）、生徒の授業満足度（項目5、6）の学校の評価平均3.6以上 ④先取学習や学習の深化など附属中学校の教育内容について定期的な中高教科会の開催による共有と中高交流授業等の実施（各教科） ⑤特別な支援を必要とする生徒や成績不振な生徒に関する組織的な支援の推進（教務部、各学年）	B
		3	豊かな人間性の育成	⑥自主的・自律的な態度を育てる特別活動や学校行事の更なる充実（特別活動部、各学年） ⑦教育相談や面談を通した生徒理解及び生徒・保護者支援の充実（教育相談部、各学年）	A
		4	その他	⑧中高一貫教育の成果の検証と工夫・改善（教務部・進路支援部） ⑨業務の精選や改善を通しての教職員の労働時間の状況の改善（各校務分掌）	A

評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
国 語	1 基礎・基本の確実な習得と活用力を育成する指導	1)	思考の可視化を通して、 論理的思考力を高めるとともに、 学び合いの場を設定する。	③	A	・読書活動や課題解決学習における図書館を活用した単元構成の工夫をする。 ・課外の内容や時期について検討し、継続的に支援できるようにしていく。 ・個に応じた指導の方法や時間の確保に努める。
		2)	目的や意図に応じて適切に書く場を設定し、 表現力や思考力の深化を図る。	③④	A	
		3)	相手の意見と関連付けながら、自分の意見を述べる方法を身に付けさせ、深まりのある話し合い活動を展開する。	③④	A	
	2 読書活動と関連付けた指導の充実	1)	図書館の有効利用を位置付けた単元構成を工夫する。	③	B	
		2)	読書単元の指導過程や方法を工夫する。	③	B	
		3)	図書に触れる機会や活用場の充実を図るとともに、環境を整える。	③	B	
	3 個に応じた指導	1)	単元テスト・定期考査・模試等を分析し、 学習状況を的確に把握する。	④	A	
		2)	学習状況に応じて、 補充指導や発展学習を行う。	⑤⑦	A	
		3)	面談や課外の実施等、個別指導ができる時間の確保に努める。	⑦	A	
社 会	1 中高6年間を見通した指導計画の改善と活用	1)	小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の改善と、中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。	①④	A	・中高との連携をさらに密にして、6年間を見通してより深く学習に取り組めるように工夫していきたい。
		2)	中高一貫教育に対応した教材・教具の整備を行う。	①④	A	
	2 学習意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を促す指導	1)	I C T機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。	③	A	
		2)	テキスト、単元テスト等を活用し、習得すべき知識・概念を明確にして、確実な習得を図る。	①⑤	A	
		3)	生徒が予想を立て、見通しを持って行う問題解決的な学習の場を設定する。	③	A	
	3 社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図るための指導	1)	複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。	①③	A	
2)		ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。	②③	A		
数 学	1 学習意欲を高める指導	1)	課題や課題提示を工夫する。	③	A	・中学3年については、高校数学Ⅰの内容について定着を図るために、限られた時間の中で希望者に対して課外を行った。中高一貫校のメリットを生かして、高校生によるミニティーチャー制を導入した。課外を希望しなかった生徒で成績不振の生徒がいたため、必ず参加する課外にすることが課題である。 ・数学の苦手な生徒に対するフォローを、空き時間を用いて行うことができた。しかし、足りなかった部分もあるので、次年度に生かしていきたい。
		2)	数学的活動の充実を図る。	③	A	
	2 基礎・基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導	1)	生徒が気付ける、解けると思えるように授業展開や説明を工夫する。	③	A	
		2)	生徒同士の話し合い・学び合いの場を充実させることで、基礎・基本の定着を図る。	③④	A	
		3)	生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化・発展的な内容の学習も行う。	③④	A	
	3 個に応じた指導	1)	単元テスト、週末課題、課外等を実施することで、個々の学力向上に努める。	③④	B	
		2)	生徒の実態を把握し、個に応じた支援が行えるようにする。	③④	A	
		3)	生徒が質問しやすいような体制作り（放課後等の活用）をする。	⑤	B	
	理 科	1 「科学する心」の育成	1)	各分野の事物・現象に対する興味・関心を高める学習の場を設定し、知的好奇心や探究心を育む。	③④	
2 科学的思考力や表現力の育成		1)	課題解決学習により、生徒が主体的に探究的な活動を行えるようにする。	③	A	
		2)	観察や実験の結果について、表やグラフ等を用いて考察できるようにする。	③	A	
		3)	話し合いや発表の場を設定して、表現力の向上を図る。	③	A	
3 高校の学習内容との系統性を重視した学習指導		1)	基礎・基本の定着とともに、発展的な学習を通して、高校の学習内容との系統性を重視した授業を展開する。	①④	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健体育	1 運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、知識や技能を身に付ける。	1) 各種目に応じた運動の学び方を理解させる。	① A	A ・1単元あたりの時間を減らす分、多くの種目を実施することで、基本的な身体動作の習得を試みた。 ・体力テストは今年度も例年並みの高い結果を出すことができている（A+B割合 男子70.8%、女子93.9%）
		2) 基礎・基本の定着を図るためにドリルゲームやタスクゲームを取り入れる。また、ICTを取り入れて動作を視覚化する活動を試みる。	④ B	
		3) グループ学習・学び合いの時間を取り入れ、公正に取り組んだり、協力したりする態度を育成する。	④ B	
		4) 規律ある行動やあいさつ、マナー、ルールの厳守	⑧ A	
	2 生涯を通して、自らの健康を管理できる能力を育成する。	1) 健康な生活と疾病の予防①、心身の発達と心の健康について理解させる。	④ A	
		2) 健康な生活と疾病の予防②、傷害の防止について理解させる。	④ A	
		3) 健康な生活と疾病の予防③、健康と環境について理解させる。	④ A	
芸術	音楽 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。	1) 基礎的・基本的な奏法の確認時間を十分に確保する。	③④ A	A ・感染症対策の観点から、歌唱の授業については配慮が必要だったが、授業形態を工夫しながら実施することができた。（音楽） ・学校行事等や入学試験で授業が削られることが多く、内容に対する授業時間数の確保が難しい。実技の時間を減らすのは難しいので、結果として鑑賞の時間が削られることになった。次年度改善して、鑑賞の時間の充実を図りたい。（音楽・美術） ・ICTの積極的活用は年間を通して行うことができた。次年度も継続的にを行いながら、新しい教材の研究を行いたい。（美術）
		2) 歌唱・器楽・創作をバランスよく取り扱う。	③④ A	
		3) グループ活動を充実することで他者の多様な音楽表現に気付かせる。	③④ A	
	美術 多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てる。 感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	1) 我が国の伝統的な音楽文化を含めた、多様な鑑賞教材を用意する。	③④ A	
		2) 鑑賞した楽曲に対して批評活動を行うことで、主体的な鑑賞態度を養うとともに他者の多様な感じ方に気付かせる。	③④ A	
		1) 基本的な技術や表現力を身に付けさせることで創造の楽しさに目覚めさせる。	③④ A	
		2) 美術の幅広い鑑賞活動を充実させる。	③④ A	
		1) 発想力を培い、想像力豊かに活動させる。	③④ A	
		2) ICTの効果的な活用や言語活動を充実させる。	③④ A	
英語	1 総合的なコミュニケーション能力を育成する。	1) 言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を実施する。	③④ A	A ・授業中の言語活動やイングリッシュタイムでの学習、クロームブックを用いた活動や課題などを取り入れて4技能を高める。 ・GTECや英検IBAを活用して、学習の動機付けを行い、中高6か年を見通した学習指導を行う。
		2) ICTを活用し、クロームブックを取り入れた授業展開を工夫する。	③④ B	
		3) 授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	③ A	
	2 ワークシート等の工夫を通して、言語活動における基礎基本の定着を図る。	1) ワークシート類の定期的な提出や評価とともに、効果的に生徒へフィードバックする。	③⑤ A	
		2) 辞書やICTの活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	③ A	
		3) 自己の学習状況を振り返り、積極的に授業に参加する態度を養う。	③⑤ A	
	3 言語活動を通して異文化交流、異文化理解をしていく態度を育てる。	1) 教科書だけでなく、様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	③④ A	
		2) ALTとのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	③ A	
		3) 学校行事の中での英語活動や総合的な学習の時間と連携した活動を実施する。	③④ A	
技術・家庭	1 生徒の学習意欲を高める学習指導	1) 生徒の興味・関心に応える学習内容を工夫する。	③ A	A ・基礎基本の定着 ・効果的な実験、実習の実施、内容の充実 ・効果的なICTの使用 ・実験、実習時間の確保
		2) 実験や実習を効果的にを行い、理解の定着を図る。	③ B	
		3) グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	③④ A	
	2 科学的な理解と技術の習得	1) 様々な事象を科学的にとらえる授業を展開する。	③ A	
		2) 実験・実習を行い、基本的な技術を身に付ける。	③ A	
		3) 学習ノートを活用し、学習したことの定着を図る。	③ B	
	3 生活に生かす力の育成	1) 生活の場面で生徒が取り組めることを意識した授業を展開する。	③④ A	

評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教 務 部	1	教育課程の適切な運用と授業時間の確保に努め、生徒一人一人が確かな学力を身に付け、自己実現を果たせるようにする。	1) 授業時間の確保に努める。特に、授業変更を積極的に行い、自習や填補の削減に努める。	③④	A	・学校行事等で授業時数の確保が難しい時期があるため、授業変更を積極的に行い、自習や填補授業をできるだけなくすようにした。次年度も授業時数の確保に努める。 ・高校教務部と相談し、中学行事をする場所を確保し、実施できた。次年度も継続する。 ・定期考査後は速やかに採点、成績個票を印刷して生徒と保護者に結果を提供できた。 ・中学表彰を行う場所の確保が難しかったため、オンラインで2回実施した。短時間で準備、実施できたので、スキルアップが実感できた。
			2) 生徒の学力の現状を把握し、教育課程の適切な運用を図る。	④	B	
			3) T Tや習熟度別少人数指導を組み入れながら、確かな学力を身に付けさせるように努める。	③⑤	A	
	2	学校行事を適正に配置し、生徒一人一人が充実した学校生活を過ごせるようにする。	1) 高校との連携を図り、考査時期、適切な行事の数を見直して、学校行事の適正配置・運営に努める。	①⑥	A	
	3	各部・学年・教科との連携を緊密にし、校務を円滑に推進できるよう努める。	1) 定期考査等の適正処理に努め、公正な評価を行う。	⑧	A	
			2) 出席状況を正確に把握して、各学年や生徒支援部との連携を図る。	⑦	B	
	4	中高一貫校としての創造的な授業を目指し、授業方法の改善や研究に努める。	1) 教科・科目の目標を設定し、学習の手引きに基づいた検証を行う。	③	B	
			2) 「3年間の学習計画」を充実させる。	②④	A	
			3) 公開授業、中高交流授業の拡充、I C Tの積極的な活用を通して、職員のスキルアップを行う。	③⑨	A	
情 報 部	1	校内ネットワーク快適利用の促進	1) 校内ネットワークを快適に利用してもらえるように、様々な意見を集約し、研究を行う。	③	B	B ・校内ネットワークは多少利用しやすくなってきたが、依然として煩雑な作業があるため、利用しやすい形に改善していくことが課題である。
	2	情報発信の充実	1) ホームページ、携帯用掲示板を用いた情報発信を積極的に行う。	⑧	A	
	3	学校管理支援システム利用の促進	1) 学校管理支援システムにおいて、高校や他の校務分掌との連携をとり、より効率的かつ広範な利用を促進する。	⑨	B	
進路支援部	1	適切な進路情報を提供し、進路意識の高揚を図る。	1) 進路資料の作成	①③	A	A ・高校との連携強化を図る（高校生との交流を通して進路について考える機会を増やしたい）。 ・生徒の進路希望状況を把握し、ニーズを反映した進路行事を検討する。
			2) 進路ガイダンス・HRセミナー等を通して、進路意識の高揚を図る。	①②	A	
			3) 保護者面談等で、定期的な進路情報を提供する。	①	A	
	2	3年間（6年間）を見通した系統的な進路支援に努める。	1) 学習・生活実態調査やキャリアパスポートを活用し、生徒の状況を把握するとともに、情報を提供する。	①②	A	
			2) 自然観察や出前授業を通して、サイエンスリテラシーの向上を図り、科学する心を育む。	①⑥	A	
			3) 高校との連携を図りながら、共通する進路行事を計画する。	①③	A	
	3	各学年及び各教科と密接な連携を図り、生徒の自己実現を支援する。	1) 外部模試の情報収集と結果の分析と活用	①⑧	B	
			2) 職業体験・キャリア教育等での学年との協力体制の確立	①②	A	
			3) 進路希望状況を適宜把握し、円滑に学年指導が進むように情報を提供する。	①	B	
保健厚生部	1	生徒の健康・安全を保持増進させ健康教育の推進に努める。	1) 生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	⑤⑦	A	A ・定期健康診断および事後措置、保健教育については学校医の協力のもと円滑に実施できた。また避難訓練を通して、危機管理意識の高揚に務めた。一方で日常的教育活動（授業や体調不良者対応等の保健室業務）とのバランスも考慮のうえ、更に効率的かつ効果的な実施方法を検討したい。
			2) 健康診断、健康教育は学校医及び学校歯科医や地域の専門機関と緊密な連携のもと円滑に行い、事後措置を確実に行う	⑦	A	
			3) 日常的な保健室利用の生徒について、担任や学年教員と連携し必要な支援を行う。	⑤⑦	A	
			4) 心のケアが必要な生徒について、担任や学年教員、教育相談部、保護者と連携を図り、目標の意識化を図りながら支援を行う。	⑤⑦	A	
			5) 学校保健安全委員会と連携し、本校の課題を明確化したうえで学校保健活動の推進を図る。	⑥⑦	A	
	2	安全で清潔な学習環境の整備と美化に努める。	1) 清掃指導の徹底を図り、学習環境の衛生管理と美化に努める。	⑦	A	
			2) 防災機器や備蓄品の点検と管理、並びに生徒達の危機管理意識の高揚に努める。	⑦	A	
	3	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、楽しく食事ができるようにする。	1) 全職員の共通理解のもと、適切な指示をしながら給食指導を行う。生徒の日々の健康状態を把握し、適切な健康管理に努める。	⑦	A	
			2) 給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	⑦	A	
			3) 職員も一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導や望ましい人間関係の育成を図る。	⑦	A	

評価項目	具体的目標		具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題	
生徒支援部	1	学校生活のきまりの確立と規範意識の高揚に努める。	1)	生活のきまりの作成及び共通理解を図る。	⑥	A	・生徒支援部員会を週1回実施できたことで、共通理解を図ることができた。一方で、中高一貫校ということもあり、ルールに関して設けづらいこともあったため、難しさを感じた。 ・携帯電話の使用について、地域の方から苦情をいただく回数が少なくなかった。規範意識を高めるうえで、学年集会等を実施したり、個別指導を行ったりが、次年度も継続して呼びかけをしていきたい。	
			2)	学級活動や学年集会等を利用し、きまりの確認や大切さについて理解を図る。	⑥⑦	A		
	2	マナーの向上に努める。	1)	「さわやかマナーアップ運動」を推進するとともに、生徒会と連携し、マナーアップの呼びかけを行う。	⑥⑦	A		
			2)	学級活動や道徳などの授業を通し、モラルの向上やマナーアップに関する活動を行う。	⑥⑦	A		
	3	安全教育の推進と事故防止に努める。	1)	登下校時の立哨指導・巡回指導を実施する。	⑥	B		
			2)	交通安全教育の徹底を図る。	⑥	B		
3)			薬物乱用防止等の安全教室を行い、生徒の危機対応能力を高める。	⑥	A			
渉 外 部	1	保護者との相互理解を進め、より円滑なPTA活動を行う。	1)	新入生父母と教師の会の運営の充実やPTA総会など保護者参加行事への参加促進を目指した積極的企画を行う。	⑦	A	・部会で、PTA総会時、中学生保護者を教室待機させた方が良いという意見が出たので、次年度はそうようにしていきたい。	
			2)	ホームルームセミナーの企画や運営の支援充実を図る。	①②	B		
			3)	広報紙への掲載内容を検討し、保護者の意識高揚を図る広報誌の発行支援を行う。	⑦	A		
	2	各専門委員会活動の調整を行い、生徒の健全育成を支援する。	1)	総務委員会・全体委員会での審議の活発化と共通理解の推進を図り、決定事項を各専門委員会の活動に反映させるための委員会間の調整を密に行う。	⑥	B		
特別活動部	1	部活動の活発化	1)	中学生、高校生両者が、共存できる部活動の方法を模索する。	⑥	B	・行事について職員間の連携を図りながら、持続可能な行事運営ができるようにしていく。 ・校則検討委員会をさらに充実させていき、生徒がより主体的に活動できるように工夫していきたい。	
			2)	部活動における効率的な活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	⑥	A		
			3)	部顧問の連携を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	⑥	B		
	2	主体性のある生徒会活動の推進	1)	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	⑥	A		
			2)	中学生、高校生両者が、協力して運営できる生徒会活動のあり方を模索する。	①⑥	A		
	3	学校行事の活性化	1)	中学生、高校生合同実施の学校行事において、中学生の身体面や精神面に配慮した運営を行う。	⑥	A		
2)			クラスマッチや体育祭を成功に導く。	⑥	A			
図 書 部	図書館利用の活性化と読書活動の充実	1)	活発で創造的な図書委員会活動ができるように支援する。	⑥	A	B	・委員会活動や読書推進活動は活発に行うことができたので、次年度は、選書に生徒の意見を反映させていきたい。	
		2)	部・教科等と指導の連携を図り、豊かな読書活動を目指す。	④	B			
		3)	図書館内の環境整備とOA化を推進する。	⑥	B			
教育相談部	生徒理解を深め、個々の発達状況に応じた課題を見極め支援を行う。	1)	Q-Uテストを年2回実施し、支援を必要とする生徒の状況把握を行う。担任・学年、必要に応じSC、SSW等と連携しながらチームとして生徒及び保護者へ適切な支援を行う。	⑤⑦	A	A	・支援を要する生徒について検査等による客観的な状態把握と教員による日常的な観察との両面から更に生徒理解を深め、全職員で支援していきたい。 ・専門機関とも積極的に連携を図りたい。	
		2)	中高一貫校としての継続的な支援を実現するため、支援を要する生徒に関し、進級および高校進学時の引継ぎを確実に実施する。	⑤⑦	A			
サイエンス部	1	「科学する心」の育成	1)	「科学研修会」等の行事の参加や地域の人材の活用を通して、科学に対する興味・関心を高める。	⑥	A	A	・中高の連携を今後も継続して行う。 ・研究発表会などを通して高校の白亜研究から学び、サイエンスリテラシーの研究及び発表に活かすという機会を今後も計画的に組む。 ・ポスター発表の形式を高校と合わせるなどの連携を行い、より発展的なポスター発表ができるよう指導を行っていく。
			2)	校内外の研究発表会等を通して、知的好奇心や探究心を高める。	⑥	A		
	2	科学的ディスカッションができるリーダーの育成	1)	総合的な学習の時間等で科学研究の仕方の習得及び研究実践をすることを通して、中高一貫したサイエンスリテラシーの育成を図り、リーダーシップを発揮できるようにする。	①⑥	A		
			2)	グローバルコミュニケーションや語学研修を中心とする教科横断的な学習の充実を通して、国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力の向上を図る。	⑥	B		
			3)	「白壘ネイチャースクール」等、中高一貫校の特性を生かして高校と連携を図り、サイエンスリテラシー育成教育の研究に努める。	①⑥	A		
	3	SSH活動の活性化	1)	「SSH科学研究発表会」を実施して、校内外に本校の活動を広めるとともに、HPなどを活用し、広報活動に取り組む。	⑥	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策			評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	1 中学生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣を確立するとともに、何事にも意欲的に取り組み、責任を持って行動できる態度を育成する。	1) 生徒の出欠状況の把握に努め、家庭との連携を図りながら、楽しく安全な学校生活が送れるようにする。	⑦	A	A	・中学校生活に早く慣れることができるように、日々の生活で細やかな指導を大切にして取り組むことができた。 ・家庭学習への取り組みには個人差があり、課題をこなすことで精一杯の生徒が見られる。また、将来の進路について考える機会が少なかったことが課題である。 ・1学年全体として、他者とよりよい関係を築き、充実した学校生活が送れるよう、チームとして尽力することができた。
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	⑥	A		
		3) 生徒一人一人の役割を明確にし、諸活動に責任を持たせるとともに、達成感を味わわせる。	⑥	A		
	2 自主的な学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の確実な定着を図るとともに、将来への夢をもたせる。	1) 授業に主体的に参加する態度を養い、家庭学習習慣の確立に努める。	③⑤	B		
		2) オリエンテーション合宿や高校生との交流を通して、幅広い見地から将来の進路について考えさせる。	①	B		
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努める。	⑦	A		
	3 部活動や学校行事、特別活動において、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動に進んで取り組む態度を育成する。	⑥	A		
		2) 集団に対する帰属意識を高め、一人一人が意欲的に活動できるよう支援する。	⑥	A		
	4 自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 自然科学に対する興味関心を高め、探究心や科学的思考力を育成する。	③④	A		
		2) 国際交流事業や高校生との交流を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	①②	B		
第2学年	1 中堅学年としての責任と自覚をもち、何事にも積極的に取り組むとともに、仲間と協力してやり遂げる態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	⑦	A	A	・学習はもちろん、学校行事や部活動など様々な場面で活躍する機会が増えてきた。担任は手帳を利用して、毎日の様子や気持ちの変容を把握するよう努めていた。何か問題が起きた場合は、その日のうちに事態の把握、対応方法を考え、解決することができた。 ・不登校生徒については、保護者と連携を図り、わかば教室をはじめ、家庭訪問や学校行事への参加を促すことができた。 ・総合学習においては今年度から文化祭で英語落語を開催し、学校外の人たちに発表する機会を設け評判も良かった。サイエンスリテラシーについては、グループをつくり年度末の発表会に向けて積極的に取り組むことができた。
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を育成し、生徒の快適な生活環境を維持する。	⑥	A		
		3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任を持たせるとともに、達成感を味わわせる。	⑥	A		
	2 自主的・計画的な学習環境づくりの支援を通して、学力の向上を図るとともに、将来の夢や生き方について考えさせる。	1) 「生徒用手帳」等を用いて学習状況を把握するとともに、個に応じた支援の充実を図る。	⑦	A		
		2) 宿泊学習やホームルームセミナー・職場見学等の行事を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	①②	B		
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	⑦	A		
	3 部活動や学校行事、特別活動において、後輩の支援をしながら主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	⑥	A		
		2) 下級生に対する思いやりの心を持ち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	⑥	B		
	4 自然科学に対する興味関心を高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。併せて表現力の向上を図る。	1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	④	A		
		2) ブリティッシュヒルズ宿泊学習や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して表現力を高め、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	①	A		
第3学年	1 最高学年としての責任と自覚をもち、何事にも意欲的に取り組むとともに、粘り強くやり抜く態度を育成する。	1) 生徒の心身の健康に留意し、家庭や関係職員との連携を密にしながら、楽しく充実した学校生活が送れるようにする。	⑦	A	A	・職場体験に向けて、職業調べ、履歴書作成、電話による職場打合せ等の取り組みによって、自分の将来について関心を高めることができた。また、高校進路支援部と連携して、日立一高のカリキュラムや、大学入試の情報などを話す機会を設けることで、高校生活や大学入学への見通しをつかむことができた。 ・2月のシンガポール海外語学研修旅行に向けて、生徒は現地大学生に対して英語で日本の文化をプレゼンテーション発表練習を行い、英語で受け答えする力が向上した。また、一日ホームステイを体験し、コミュニケーション能力を高めた。 ・来年度のクラス編成に向けて、新高校1年次の担当への引き継ぎをしっかりと行い、生徒がスムーズに新年度のスタートを切れるよう支援する。
		2) 進んで清掃活動に取り組む態度を強化し、生徒の快適な生活環境を維持する。	⑥	A		
		3) 生徒一人一人が主体的に活動できる場を設定し、諸活動に責任を持たせるとともに、達成感を味わわせる。	⑥	A		
	2 自主的・計画的・発展的な学習活動の支援を通して、学力の深化と向上を図るとともに、将来の夢や生き方について具体的に考えさせる。	1) 「生徒用手帳」等を利用して生活・学習状況を把握するとともに、自律の精神の育成とに応じた支援の充実を図る。	⑦	B		
		2) 職場体験、進路ガイダンス、各種セミナー等の活動を通して、将来の生き方や適性について考えさせる。	①	A		
		3) 生徒理解の深化を図るため、個別面談や教育相談の充実を努めるとともに、関係職員や関係機関との連携を密にする。	⑦	A		
	3 部活動や学校行事、特別活動において、リーダーシップを発揮し、主体的に活動しようとする態度を養う。	1) 部活動や学校行事、特別活動等において、生徒が主体となって活躍する場を設ける。	⑥	A		
		2) 下級生に対する思いやりの心を持ち、常に全体の状況を見ながら適切に判断し、進んで行動できるよう支援する。	⑥	A		
	4 自然科学に対する興味関心をより一層高めるとともに、国際性豊かな人材の育成に努める。	1) 科学講演会や「総合的な学習の時間」（サイエンスリテラシー）等を通して、探究心や科学的思考を深める。	④	A		
		2) 海外語学研修や「総合的な学習の時間」（グローバルコミュニケーション）等を通して、国際社会で活躍できる人材の育成に努める。	①	A		

※評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不十分 E：不十分